

ユーザーレポート — 0の証明 — User Report

医療法人優なぎ会雁の巣病院

アルコール依存症の専門治療を行う病院でのアルコール検知器活用法 ～医療とテクノロジーの融合によるアルコールインターロックの可能性～

福岡県福岡市にある医療法人優なぎ会雁の巣病院は、24時間 365 日の精神科治療を提供する「精神科救急医療」と、アルコール依存症をはじめとする「アディクション専門治療」の2つを主軸とし、様々な精神疾患の治療に尽力する精神科病院です。「納得のいく医療」を理念とし、患者と家族の全員が『来てよかった』と思える病院づくりを目指しています。1990 年からアルコール依存症治療を本格的に開始し、2014 年に「飲酒運転撲滅対策医療センター指定病院」に、2020 年には福岡県依存症治療拠点機関（アルコール健康障害）に認定されています。

雁の巣病院では、治療の一環として東海電子のアルコール検知器「ALC-MobileⅢ」を活用しています。依存症治療においてアルコール検知器の利用は珍しく、その活用方法と効果について詳しくお話を伺いました。また、アルコールインターロックが飲酒運転をなくす有効手段であるか、アルコール依存症治療の専門家としての見解をお聞きしました。

今回の取材は、医療とテクノロジーの専門知識を共有し、飲酒運転撲滅という共通目標に向けた両分野の連携の可能性を探る有意義な機会となりました。取材に応じていただいたのは、アルコール依存症病棟職員、デイケア職員の皆様です。

ご利用機器

ALC-MobileⅢ



… 東海電子から雁の巣病院 様へのインタビュー …



アルコール専門治療と 患者サポート体制への Q&A

Q: 精神科の救急では、どのような患者さんを受け入れていますか？

A: 24 時間 365 日対応できる体制が特徴である当院の精神科救急は、様々な状況の患者さんを受け入れています。急性一過性精神病の方や、精神的に追い詰められた状態の方、うつ病で自殺企図のある方などが主な対象です。最近では 10 代の若年層の患者さんも増加傾向にあり、幅広い年齢層に対応しています。

Q: アルコール依存症と一般精神科の病床数比率を教えてください

A: 病床比率は、アルコール依存症と一般精神科で約 1:3 です。具体的には、アルコール依存症病棟が 58 床で、病院全体の約 4 分の 1 を占めています。

Q: 雁の巣病院のアディクション専門治療について教えてください

A: 平成 2 年に、開放的な病棟で集団を中心とした治療を行う「久里浜方式」に準じた専門プログラムをもったアルコール専門病棟を開設しました。アルコール依存症について正しい知識を得ることや、対人関係のスキルを身に付けていくための各種プログラムによって、飲まなくてもいい人生を歩んでいくための仲間づくりやストレスへの対処法を学ぶことを目的としています。約 3 か月の入院治療を終えても、入院治療だけでは治療は完結しません。社会で生活しながら断酒生活を送るためには、通院を続けたり、自助グループへ継続して参加することが必要です。そのために、入院中にご自宅を訪問してより具体的な退院計画を立てるためのサポートを行ったり、デイケア通所の体験をしていただく機会を提供しています。

Q: 入院中のご自宅への訪問について教えてください

A: 当院は手厚いサポート体制を特徴としています。その取り組みの一つに「退院前訪問指導」があります。これは診療報酬で算定できる正式な医療サービスですが、当院ではそれ以上の意味を持っています。退院前訪問指導の主な目的は、患者さんの生活環境を直接確認し、退院後の生活を円滑にサポートすることです。具体的な内容は患者さんの個別の状況に応じて柔軟に設定されますが、基本的には退院後の生活環境を整えることに焦点を当て、円滑な社会復帰と、その後の安定した生活の実現を支援しています。



※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

User Report

ユーザーレポート

— 0の証明 —

医療法人優なぎ会雁の巣病院

Q: 退院前訪問指導はどのような職種の方が行っているのでしょうか？

A: 退院前訪問指導は、多職種連携によるチームアプローチで行われます。看護師やソーシャルワーカー、作業療法士、理学療法士など、複数の専門職が協力して訪問することで、患者さんの多様なニーズに対応し、より包括的な支援を提供することができます。

Q: デイクアについて教えてください

A: 当院には、依存症専門のデイクアがあります。デイクア「きらら」は、アルコール依存症を主とした「嗜癖（しへき）」問題を抱える方を対象とする、外来集団治療の場です。きららには 1 日に約 30 名の方がお酒をやめるために通所し、ARP（アルコール・リハビリテーション・プログラム）に参加されています。中には 20 年以上も断酒継続をされている方もおられます。決して簡単ではない断酒継続、そこからつながるその方らしい生き方のためにデイクアを活用していただければと思っています。



※現在はALC-MobileⅢを利用されています

… 雁の巣病院 様から東海電子へのインタビュー …



アルコール依存症治療専門チームが問う アルコールインターロックの可能性

Q: アルコールインターロックの仕組みと特徴について教えてください

A: 東海電子のアルコールインターロック「ALC-ZEROIII」は、呼気吹き込み式アルコール検知器で、アルコールを検知するとエンジンがかからない仕組みのため、飲酒運転を物理的に阻止します。装置は一般的な車両であれば後付けが可能で、車内に設置します。エンジンをかける前に測定器に息を吹き込んで飲酒検査を行います。アルコールが検出された場合にはエンジンの始動がロックされます。

「ALC-ZEROIII」の特徴として、記録機能があります。全ての測定データが自動保存され、後から測定履歴を確認することが可能です。これにより、長期的な飲酒傾向の分析や、治療効果の評価に活用することができます。アルコールインターロックは単なる検知装置ではなく、飲酒運転防止と行動分析を兼ね備えた総合的なシステムとなっています。

Q: アルコールインターロックの導入費用について教えてください

A: 機器本体の価格と取り付け作業費用を含めて約 20 万円です。個人での導入としては決して安い金額ではありませんが、アルコール依存症治療の一環として考えた場合、この投資が患者さんの安全と回復、そして社会全体の交通安全にもたらす価値は非常に大きいと考えています。長期的に見れば、事故や再発防止のコストを大きく下回る可能性があります。

Q: アルコールインターロックの一般車両への普及状況について教えてください

A: 現在、日本全国で約 40 台が一般車両に設置されています。主に、アルコール依存症の当事者を持つ家族が自主的に導入したケースです。これらの先駆的な事例は、家族の積極的な支援であると同時に、飲酒運転により身内が加害者になるかもしれないという強い危機感の表れと言えます。



アルコール検知器の活用方法

Q: アルコール検知器の具体的な使用方法と目的を教えてください

A: アルコール検知器は、入院患者さんが院内外出や外泊から戻った際に使用しています。全ての患者さんに事前に十分な説明を行い、同意を得た上で実施しています。検知器が飲酒反応を示した場合、結果は客観的な事実として受け止め、決して責めることはありません。代わりに、個々の状況に応じた適切な対応を行うことを目的としています。この方法により、患者さんの回復過程を客観的に評価し、効果的な治療支援を提供することが可能となっています。さらに、この過程を通じて、患者さん自身の自己認識や治療への積極的な参加を促すことも目指しています。

このように、アルコール検知器は単なる検査機器ではなく、患者さんの飲酒のきっかけや状況を一緒に振り返り、再発防止策を考えるなど、対話による支援につなげるツールとなっています。

ユーザーレポート

ユーザーレポート

— 0の証明 —

医療法人優なぎ会 雁の巣病院



飲酒運転撲滅に向けた新たな挑戦 ～医療とテクノロジーの連携～

アルコールインターロック装置は、飲酒運転を物理的に防ぐ革新的な技術です。今回、東海電子はアルコール依存症治療の専門家の皆様にこの装置をデモ機でご紹介しました。実際の操作を通じて、飲酒運転防止に対する高い効果性を確認していただき、専門家の皆様とアルコールインターロック装置の有効性について共通認識を持つことができました。同時に、この技術の社会的認知度をさらに高め、関連する法制度を整備し、より広範な普及を進めていく必要性についても議論を深めました。



依存症治療臨床における アルコールインターロック活用の鍵

実際にアルコールインターロックを医療現場にて活用することを想定したグループディスカッションにおいて、スタッフの方々が一番重要視されたのは、装置に記録されるデータの扱いについてです。雁の巣病院の依存症治療チームが大切にしていることは「共感・受容・つながり」です。現在活用しているアルコール検知器にて飲酒反応が出た場合も、患者さんとの建設的な対話につなげています。アルコールインターロックの測定記録も同じように、飲酒検知があったとしても「運転せずに済んでよかった」という肯定的なアプローチにより、患者の自己効力感と治療意欲を高めるものとして促すことが重要であるという姿勢に、私たちも深く共感しました。



※画像はイメージです



アルコールインターロック家族会 ～支え合いの輪を広げる新たな試み～

アルコール依存症は、患者本人だけでなく、家族全体に大きな影響を及ぼす病気です。家族支援の重要性についても議論が発展していく中で、アルコールインターロックを装着した家族同士が交流できるオンラインコミュニティ「アルコールインターロック家族会」の構築という、画期的なアイデアが生まれました。このコミュニティの実現は、アルコール依存症に苦しむ家族全体を包括的にサポートする重要なツールになると確信しており、現在、具体的な検討を進めています。



※画像はイメージです



今後の展望 — 医療と技術の協働による飲酒運転撲滅へ

私たちは、アルコールインターロックの社会的普及に努める中で、海外で進んでいる飲酒運転違反者への装着義務化制度を、日本でも整備する必要性を訴えています。また、高齢者が使いやすい機器の改良にも力を入れています。

今回の対話を通じて、医療現場の臨床的知見と私たちの技術を融合することで、飲酒問題に苦しむ方々をより効果的にサポートできる可能性が見えてきました。

まずは、病院内での試験的導入から始め、必要とされる患者さんへの活用を進めていく予定です。この小さな一歩が、やがて飲酒運転のない、安全で安心な社会の実現へとつながることを強く願っています。東海電子は、医療機関との継続的な協力体制を築きながら、技術の改善と社会的認知度の向上を推進してまいります。そして、アルコールインターロックが単なる機器ではなく、依存症治療と交通安全を支える重要なツールとして広く認識され、活用されることを目指して、今後も努力を重ねてまいります。

取材ご協力

医療法人優なぎ会
雁の巣病院



住所: 〒811-0206 福岡市東区雁の巣1-26-1
TEL: 092-606-2861

※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。